

いいまち 議会だより



第77号 平成29年5月15日

発行：長野県飯島町議会

P3

あれどうなった
防災士の資格取得に補助を
ひとこと広場
議会のハテナ？
請願と陳情の違いは？

P4～5

議会構成
新たなスタート



P6～7

3月定例会
新年度予算
第2ステージ



P8～9

総務産業委員会
バランス予算で
元気な町へ
第1回・第3回 臨時会



P10～11

社会文教委員会
飯島中央クリニック開設



P12

社会文教委員会
移動購買車の先進地視察



P22

町民の声を議会へ
次世代に向けた
観光農園づくり



町政を問う

ここが聞きたい

9議員が質問

久保島 巖

飯島ルネッサンス



何を再生するか…………… P13

滝本登喜子

DMO



南部の取り組みは…………… P14

折山 誠

移動購買車



事業に福祉助成を…………… P15

堀内 克美

新年度予算



想いは反映されたか…………… P16

三浦寿美子

いいちゃんバス



期待に応える運行を…………… P17

坂本 紀子

自治会



町はどう関わるのか…………… P18

中村 明美

学校給食センター



建て替えを急げ…………… P19

竹沢 秀幸

観光基本計画



温泉発掘を…………… P20

浜田 稔

地域自治



スリム化で持続可能に…………… P21

「一般質問」とは
行財政にわたる議員主導による政策の議論です。(通告順)

表紙の写真／春らんまん田切公園

追跡

あれ どうなった

一般質問・審査での意見・請願陳情

その後のゆくえ

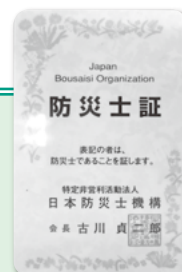
平成28年6月議会 一般質問

問 防災士の資格取得に補助を。

答 平成29年度で予算化。

その後

平成29年3月定例会で実現



ひとこと広場

いいと思いますか
もっとカラフルにしてほしいです。

クイズをつけるのはあもしろくて
いいと思ったのですが、もう少し
簡単に、あもしろいクイズの方が
楽しくていいと思いました。
議会たばりの中は、もう少しイラスト
などをいけて興味をひくような感じ
にすればいいと思いました。

議会のハテナ?



請願と陳情の違いは?



住民

個人でも
団体でも

意見を文書で
直接提出

請願(紹介議員有)
・受理する義務有

陳情(紹介議員なし)

議会

松下壽雄氏に 全国町村議長会表彰

松下前議長が、多年にわたり地域振興発展
に寄与した功績により、全国町村議会議長会
から表彰されました。



新たなスタート!

議長に 堀内克美 議員、
副議長に 中村明美 議員を選出

総務産業委員会

○数字は期



住民の代表とし、住民の声を大切にし、住民の真の声を届けるパイプ役になる。分かり難い行政情報を素人目線で分かり易く発信する。人口が減っても住民の皆が幸せな町を目指す。世界一の農産物・風景・歴史に誇りを。

委員長 久保島 巖(豊岡③)



若者・子育て世代の定住に向けた住宅対策の強化に取り組み、自然・景観・環境が素晴らしい「住宅地は飯島町」と言われるよう、地の利を活かした、豊かで活気ある住みたくなるまちづくりを目指します。

副委員長 本多 昇(上通り②)



1つずつ叶えていく。
◎食育推進活動を身近な場所から。料理教室の開催と地産地消の取り組みを展開。◎学校・地域と連携し、多様な学習機会と交流事業に努める。◎伝統文化・食の継承と、女性も活躍できるプランづくり。

滝本 登喜子(北町②)



皆様と一緒に安全・安心で、現在住んでいる住民の方、移住者の方も飯島町に住んで良かったと思える循環型の町づくりを目指します。私の目指す循環型の町づくりとは、エネルギー・食・その結果として「人」です。

よし むら たく ひろ
好村 拓洋(上ノ原①)



基本姿勢は「弱い立場の人にこそ政治の光を」「地域で経済が巡る仕組みを」。行政に求めるだけでなく「生活SOS伊南」相談会を続け、自然エネルギー事業を推進します。また、ガラス張りの議会を目指します。

浜 田 稔(本一③)



明るく希望のもてる飯島町を！
○健康で希望ある暮らしを ○学校教育の健全育成 ○病気・介護予防や高齢者支援の充実 ○食品ロス削減 ○若者の声を町政に繋げる ○女性目線の防災対策 ○一人も孤独にさせない地域の絆づくり

中村 明美(上ノ原③)

議会広報委員会

委員長 橋場 みどり 副委員長 折山 誠
滝本 登喜子 好村 拓洋
浜 田 稔 坂本 紀子

議会運営委員会

委員長 浜 田 稔 副委員長 折山 誠
久保島 巖 橋場 みどり
坂本 紀子



議長 堀内 克美

住民福祉の向上をめざして！

町は60周年を経過し、少子高齢化が進んでおります。定住促進・医療・福祉など、少子化対策が進められております。

議会は、意思決定機関として住民の声を反映し、公正な議会運営を通じ、行政のチェック機能を発揮しつつ、車の両輪として住民福祉の向上を図り、明るい元気な町づくりを進めます。



副議長 中村 明美

この度、副議長に就任させて頂きまして大変に身の引き締まる思いです。

2期8年の議員経験と女性目線も活かしながら、議長に協力し飯島町議会の向上のため一生懸命に努めてまいります。

そして、全議員の皆様と共に更なる議会の活性化に努め、町民に開かれ・信頼される議会の実現に向けて、公平で明るい議会を目指します。

社会文教委員会



委員長 坂本 紀子(新田④)

30年先も飯島町が、美しい田園風景を残しながら、バランスのとれた町になっているよう注意深く政策を見極めていきたい。観光・福祉・教育・環境共生栽培が更に充実するようにしたい。初心忘れるべからず。



副委員長 折山 誠(新田②)

○高齢者・障がい者の在宅支援施策の充実に力を注ぐ。
○蕎麦の里づくりで観光誘客に取り組む。
○四季美しく穏やかな時の流れるこの町を次代につなぐ。



橋場 みどり(山久②)

一人ひとりが繋がりを広げ皆で人に優しい町づくり。
防災：災害復興時の妊婦や授乳に必要な情報・思春期の女兒への配慮・女性への性的暴力・DVなどが起きないように平時から防災の女性参画・体制を。小さな声の実現を。



竹沢 秀幸(柏木④)

キャッチフレーズ
「キラリ輝く飯島町」
リニア・三遠南信道など十年後を見据え、飯島町が77市町村の中で、個性的な地方創生のまちづくりを進め、町民が幸せに暮らせるため、豊富な経験を生かし一生懸命頑張ります。



三浦 寿美子(本六⑥)

町政の主人公は町民です。社会保険は弱い立場の人の生命を守る「鎧」です。赤ちゃんからお年寄りまで一人ひとりに生きる権利があります。これからも福祉・医療・介護の充実を求めてがんばります。



堀内 克美(北河原③)

地方創生・取り戻そう元気な飯島町を！誰もが暮らしやすい・安全で安心な町づくり。産業振興・雇用の拡大・子供や高齢者にやさしい災害に強い明るい町・バイパス・田切の里・リニアなど新交通網で町の活性化の推進。

議員選出監査委員

竹沢 秀幸

上伊那広域連合議員

堀内 克美
中村 明美

伊南行政組合議員

堀内 克美 中村 明美
久保島 巖 坂本 紀子

3つのチャレンジ 第2ステージの予算は

町長の考え(施政方針)

時いた種を育てる年



- ・一般会計の予算は昨年より2.6%、1億2900万円の減。
- ・基金を使っても適期に事業を実行。
- ・子育てと福祉を中心に厳選。
- ・「安心して暮らせる豊かな町」を目指す。

議会の結論(賛成討論)

財源不足の中、バランスの取れた手堅さを評価
詳細は委員会審査をご覧ください



- ・財源不足の中、バランスのとれた手堅い予算だ。
- ・定住促進は成果が出つつあり、空き家活用も。
- ・地域おこし協力隊14人が町に定住できるように。
- ・ふるさと納税の実収益は寄付金の2割ほどだ。慎重な実施を。
- ・介護予防総合事業が始まる。支援が後退しないよう実施を。

拡充・新規事業から抜粋

子育て支援

◇石楠花苑駐車場	1億1223万円
◇子育て支援（ネウボラ+）※	803万円
◇保育士処遇改善	204万円

安心して暮らせる町

◇広域農道歩道整備など	6261万円
◇中央道水路橋・城ヶ池補強など	4770万円
◇林道の危険箇所整備	1206万円
◇情報セキュリティ対策	733万円
◇防災行政無線増設	682万円

地域活性化

◇地域おこし協力隊14人分	9584万円
◇ふるさと納税推進	2869万円
◇まちなか活性化	1232万円
◇青年就農給付金	1200万円
◇坊主平トイレ上水道接続	787万円
◇アウトドアフィールド事業調査	716万円

※妊娠から中学までの子育てアドバイス



進む歩道整備

会 計 名	予 算 額	前年度比
一 般 会 計	46億5100万円	▲2.7%
国民健康保険	11億3515万円	▲0.5%
後期高齢者医療	1億2454万円	▲1.0%
介 護 保 険	10億8321万円	1.6%
公 共 下 水 道	3億8582万円	3.5%
農業集落排水	2億7043万円	▲1.0%
水 道 事 業	3億6929万円	0.6%
合 計	80億1947万円	▲1.3%

全会計予算

平成29年3月議会は、3月1日から14日までの14日間の会期で開催、33案件が上程されました。
補正と新年度の予算13件、新教育委員や農業委員会委員などの人事3件、条例9件など全案件

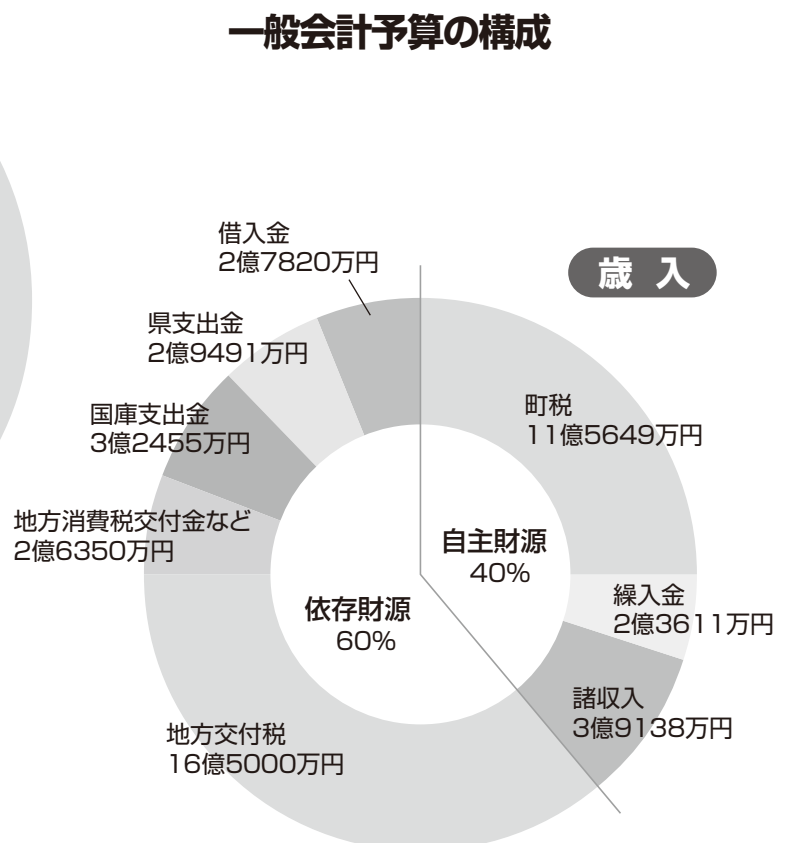
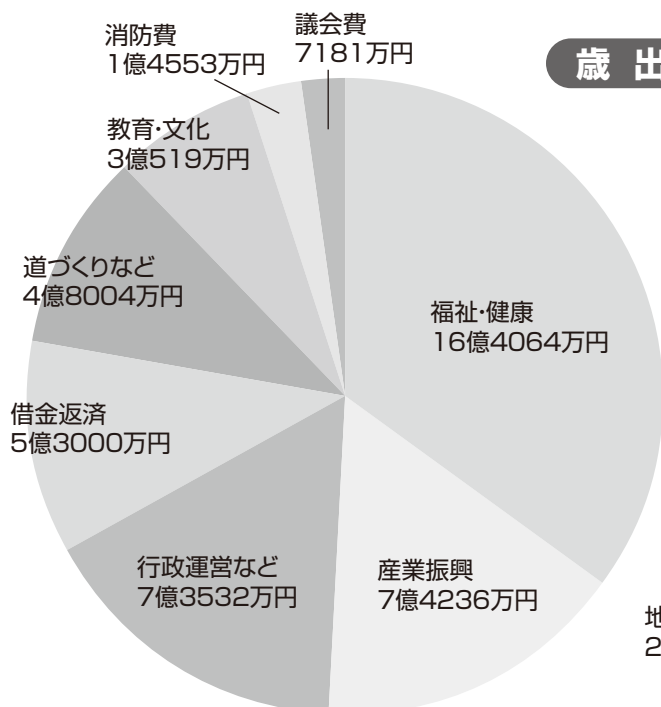
を全員一致で同意・可決しました。うち議員提出2件は、議会広報委員会を常任委員会とすること、議場へのタブレット持ち込みなど議会改革の内容。

陳情の本会議審査結果

内 容	提出者	付託	結 果
オスプレイの低空飛行訓練の中止を	上伊那憲法を守る会	総務	趣旨採択 賛成 8 – 反対 3
組織犯罪処罰法改正(共謀罪)に反対する	上伊那憲法を守る会	総務	不採択 賛成 3 – 反対 8
県に子ども障がい者の窓口無料化を求める	医療生協安心づくり委員会	社文	採択 賛成 8 – 反対 3

意見書採決結果

内 容	提出者	結 果
県に子ども障がい者の窓口無料化を求める	竹沢 秀幸	可決 賛成 11 – 反対 0
オスプレイの低空飛行訓練の中止を	坂本 紀子	否決 賛成 3 – 反対 8
組織犯罪処罰法改正(共謀罪)に反対する	浜田 稔	否決 賛成 3 – 反対 8
オスプレイの低空飛行訓練について	竹沢 秀幸	可決 賛成 8 – 反対 3



バランス予算で元気な町へ

平成29年度飯島町会計予算の一般会計分割付託分と公共下水道・農集排・水道事業を審査し、全員一致で可決しました。

討論意見

一般会計

- 全体的にバランスの取れた予算だ。
- 町長の思いの入った予算なので規模が膨らんでくるかと思ったが、前年度比2.7%減の堅実なものとなった。
- 儲かる飯島町の予算がもう少し盛り込まれるかと思ったが、比較的押さえられた。様々なチャレンジののろしが上がり、町が元気になりつつあり、継続を期待する。
- 新年度策定の観光計画や景観計画は、関係者が連携し、未来に残るものを期待する。
- 景観計画策定を外部委託しても、魂は職員の中に残るように取り組んでもらいたい。
- 各課長の意欲的な29年度目標が提出されたことを評価する。
- 会計課長に収納方法の効率性を質したが、『効率重視でなく住民の利便性を第1に考えたい』との答えに感銘を受けた。
- 環境共生米を学校給食で使うが、今後は野菜も含め福祉施設などでも使えるよう求める。
- 地産地消とはいうが、地元産のものが多くて使えない現状がある。地元で食べられることが基本だ。この課題を研究する必要がある。

公共下水道事業

- 七久保のつなぎ込みの状況が低いと見られる。使用量が増えれば効率的な運営ができる。今後、加入率を上げる努力を求める。

農業集落排水事業

- 細かいところで様々な管理が適切に行われている。
長期的な展望の中で、公共下水道との統合なども検討されることになる。適切な形で進めることを求める。

水道事業

- 住民の大切なライフラインで、石綿管の交換も適切に進められている。石綿管交換を耐震化という面からも取り組んでいく考えに賛同する。既設のビニール管も耐震性の強弱があり、長期的改善計画を求める。
- 経費面で余裕はない状況だ。
- 本管から遠い場所への敷設は経費が増加する。定住促進などでの住宅新築には関係課の連携が必要だ。

陳情審查

- ◆オスプレイの低空飛行中止
提出者：上伊那地区憲法を守る会
前田 是行 氏
採択 賛成2 反対1

◆**内容** オスプレイの低空飛行
訓練の中止を求める。

意見

反对

- ・100%安全はあり得ない。飛行速度も速く、輸送能力に優れている。県内上空をさほど飛ぶわけでもない。

贊成

- ・事故率の高さ・安全性・観光面からも訓練は認められない。
- ・日本への配備自体に反対。観光立県上空にオスプレイが飛ぶことはいただけない。

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

◇組織犯罪処罰法改正案に反対

提出者：上伊那地区憲法を守る
会 前田^{よし ゆき}是行氏

採択 賛成2 反対1

◆**内容**「テロ準備罪」「共謀罪」の新設に反対する。

意見

反对

- ・今審議中で、懸念解消のための検討をしているところだ。内容がまだ固まっていない。

贊成

- ・テロは今の組織犯罪法令で取り締まれるので、新設する必要はない。国民の主権を守れないものは法として不適格だ。
- ・犯罪構成要件が未整備だ。
- ・オリンピック開催にも支障は無い。

補正予算審査

平成28年度一般会計補正予算(第7・8号)・特別会計など3会計の分割付託分を審査し、全員一致で可決すべきものと決定しました。

一般会計質疑

問 地籍調査費が減額されたが、規模はどのくらいか。

答 七久保7区の0.55km²が0.27km²に減った。国の予算に変更はないが、県の配分で減額された。

問 空き家提供事業の実績は。

答 2月1日現在で6件の提供があった。

固定資産税減免対象額は22万9000円になっている。

問 60周年記念誌用にプロが撮影した写真の版權を買い取るようだが、どのようなものか。

答 顔の写っていない風景中心で、今後いろいろな使い道があると考えている。議会でもぜひ利用してほしい。

意見

賛成 特に問題は見当たらない。可決すべきものとする。

特別会計討論

・水道事業会計は、正確な説明で全体像が把握できた。適切であり賛成する。

・公共下水道特別会計は、的確であり可決すべきだ。

・農業集落排水特別会計は、平準化債に注視が必要なことを申し添え、可決すべきだ。

第1回 臨時会 1/12

体育施設の耐震補強

平成28年度

一般会計補正予算(第6号)

補正額4100万円

総額53億4524万に

主な補正財源

○交付金	1300万円
○町債	2800万円
○予備費充当	248万円

主な使い道

○B & G 体育館	2048万円
○飯島体育館	893万円
○田切体育館	480万円
○本郷体育館	480万円
○七小グラウンド照明施設改修	432万円

その他、情報セキュリティ強化契約案件の計2議案を全員一致で可決しました。



耐震化が進む体育館

第3回 臨時会 4/21

「楽天」出店 手数料を条例化

条例改正

手数料条例の一部を改正
「楽天」売り上げの2割を手数料として徴収。

平成29年度

一般会計補正予算(第1号)

○海洋センター指導者養成・講習など	50万円
-------------------	------

任期満了に伴う監査委員の選任

任期4年 羽生^{しゅういち}收一氏

飯島中央クリニック開設

平成29年度一般会計予算分割付託分と所管する特別会計3予算を審査し、全員一致で可決すべきものと決定しました。

主 な 質 疑

一般会計

問 広域連合負担金の中でごみ処理費が29年度は増えている。消費費も含め今後の見通しはどうか。

答 ごみ処理費はこれまでのような大きな伸びは見込まれない。消費費も大きな伸びはない。

問 伊南清掃センターの廃止後の施設利用は。

答 最終処分場の八乙女では回収できない乾電池・残灰の中間管理を行う。

問 太陽光発電の公共施設屋根貸事業コンペの公募があった。

資料作成の期間が短く参加できなかったという業者の声があった。公平性はあったのか。

答 準備は可能だと判断した。29年度から売電価格・手続き変更があるので今年度中に決定したかった。

問 28年度は当初予算から補正で6億円増加した。29年度はどのくらい増額補正を見込んでいるか。

答 国の2次補正があるので、有利性を踏まえて調整したい。1億円プラスアルファと見ている。

問 国は自殺対策の取り組みをしているが、地方への財源措置は減っている。なぜか。

答 補助金は減っているが、中身全体では減っていない。30年までに自殺対策単独の対策計画を立てる。

問 石楠花苑で予定している障がい者サービスの運営内容は。

答 「こまくさ」から3～4人移る。定員の20名まで徐々に増やしていく。

問 福祉タクシー券の拡充内容は。

答 65歳以上の日中独居者全員を対象とした。

問 学童クラブの時間延長は評価するが、利用料の改定は。

答 月額一律5000円だったが、新たに9日間の利用までは1日300円とした。

問 中学校のコミュニティスクールの内容は。

答 学習支援のほかに、西駒登山・美術写生・文化祭合唱・戦争体験などの分野で、地域の人にかかわってもらう。

問 保育園の保育サポーターの勤務内容は。

答 各園1人はフル勤務。1人は給食時の短時間勤務となる。

問 伊那県ウォークの内容は。

答 京都御苑から飯島町まで、旧中山道に沿った安全な道を歩く。

5月から11月までの7回と、30年は3月から7月までの5回。このウォークをきっかけに町の歴史を知る機会にする。すでに定員50人に達している。

介護保険会計

問 介護予防・日常生活支援総合事業は現体制で運営できるか。

答 ケアマネージャを1人増やす。いままで有資格者が関わっていたサービスを、生活支援サポーターが行う。

サポーター養成講座から始めていく。

総 括 質 疑

問 健康づくり事業で、資格を有する地域おこし協力隊を募集したが応募がなかった。今後の対応は。

答 資格のあるなしに関わらず、募集を継続していく。目的は子どもから大人までの健康づくりとする。

問 公共施設の老朽対策では、給食センターを最優先に取り組むべきだが。

答 公共施設の長寿命化計画で

は、給食センターは31年度と
なっている。

国の補正予算に対応できれば
前倒しもある。

賛成討論

一般会計

◇おたふくかぜワクチン予防接
種費用補助・学童クラブの時間
延長を評価する。

借金は今後繰り上げ償還など
で対応することを望み賛成。

◇診療所・子育て支援センタ
ー・日常生活総合事業の充実な
ど、子どもから障がい者・高齢
者まで行き届いた予算であり賛
成。

国保特別会計

◇利用料など困窮時の配慮が認
められた。今後も 弱者に寄り
添う対応が期待できる。

◇これまでの健康増進への取り
組みの成果を評価する。

介護保険特別会計

◇10億円あまり総合事業に移
行される。生活サポーターを養
成し、健康長寿への取り組みが
期待でき賛成。



整備の進む防災備品

補正予算審査

平成28年度一般会計補正予
算(第7号・第8号)分割付託分
と国保特別会計補正予算(第3
号)を審査し、全員一致で可決
すべきものと決定しました。

質疑

問 高額医療費の増額理由は。

答 退職者が国保に移行し、被
保険者が増えたため。

問 高額医療対象者の実態は。

答 薬で高額医療の対象になる
ものもあり、増加している。

条例案件質疑

重度心身障害者福祉年金条例 を廃止する条例

問 この条例を廃止しても、今
後国の制度で対応ができるのか。

答 現在では、障害者年金や国
の制度が充実され、廃止しても
補える。

キッズ防災拠点施設設置条例

問 大規模災害発生時における
福祉避難所拠点とは。

答 この施設と石楠花苑が福祉
避難所となり、キッズ防災施設
が拠点となる。

陳情審査

◇子ども・障がい者等の医療費
窓口無料化の早期実施を求める

提出者：安心まちづくり委員会
委員長 下平まち子氏

賛成 4 反対 1

◆内容 厚労省は窓口無料化実
施の自治体に課しているペナル
ティーの一部を廃止した。県も
現行の自動給付方式をやめ、窓
口無料化を早急に実施すること。

質疑

問 来年から、国保が県一体化
されるため、県内自治体も無料
化に統一した方が良いというこ
とか。

答 統一で、医療機関の事務が
スムーズになる。

問 障がい者のペナルティーは
残り、県の負担になるので、国
に廃止を求めているべきだが。

答 国は子育て支援の一環とし
ており、障がい者は対象外であ
る。

問 県が無料化した場合の負
担は。

答 国保の交付金がペナルティ
ーとなり、町は数百万が減額と
なる見込み。

賛成 障がい者は対象外だが、
本来国がすべきこと。段階的に
改正を進め、一步前進させるた
め県の速やかな対応を望み賛成。

平成28年度予算の主な事業現地を視察しました。

キッズ防災拠点施設建設現場

4月5日開設に向けて進捗率95%の建設状況を視察しました。
新たな子育て支援センターとして期待されます。



シンプルな外観と目的に配慮された設備

飯島中央クリニック建設現場

5月開業を目指して内装工事が急ピッチで進められていました。地域福祉センターに隣接し、福祉との連携や往診の復活が期待されます。



町1次医療の核となって!

移動購買車の先進地視察

2/8

阿南町新野(株)蔵 社長 金田^{かねだ}三^み千^ち男^お氏を訪ね、移動購買車事業の状況を視察しました。

阿南町は公共交通網が乏しく、高齢化による買い物弱者が多い町です。

軽トラックを改装した車に、仕入れた商品などを積み込み、戸別訪問販売をしています。従業者は1台を1人が担当。

阿南町・泰阜村・売木村・天龍村に加え、愛知県境でも営業しています。

経営方針は、戸別訪問で客との会話を大切にし、民間福祉事業とわりきっているそうです。

社長は『近年、国は地方の高齢化を背景に、移動販売事業に着目している。中山間地の移動販売事業を収益事業としてとらえることは困難だ。』として以下の背景から、事業者に対する行政補助制度創設の必要性を語られました。

- ・高齢者・障がい者などの在宅支援や安否確認など福祉の視点
- ・訪問時に、肥料や野菜苗を配達することで、高齢世帯が管理する農地の保全

このような考え方が当町の移動購買事業の参考になりました。



腰の曲がった方に配慮された車高

飯島
ルネッサンス

何を再生するか

地域特性の発揮だ 町長



久保島 巖

問 平成29年度予算のキャッチフレーズを「飯島ルネッサンス」と町長は発表した。何を再生復興させる予算なのか。

町長 壊して、新しいものを作るという意味ではない。今ある地域資源・大自然・引き継いできた農地・文化などを地域特性とし発揮させ再生させる。

問 平成28年度キャッチフレーズ「飯島版ネウボラ^{プラス}」^{※1}は今年度に引き継がれる。

だが、未満児保育の充実度が低いと感じるが。

※1 妊娠から中学までの子育てアドバイス

教育長 東部保育園では未満児（1～2歳）8名増の受け入れを計画している。

また、職員体制も8名増員し保育士の処遇も改善する。

問 希望者全員が入園できる体制か。

教育長 現在は未満児も含め希望者すべてを受け入れている。

問 観光基本計画を立てる予算があるが、誰がどのように行うか。また「伊南DMO」^{※2}との関わりはどうか。

※2 地域と協同して観光地域づくりを行う組織

町長 先ず専門家からアウトドアフィールド構想のプレゼンを受け、町民の意見を聴きたい。同時に今までの町政の継続に考

慮し計画を作っていく。時間はかかるだろうが、町の組織の再編も出てくると思う。

「伊南DMO」は町独自の考えが大切。すべて任せてよいとは考えていない。

問 「田舎暮らしランキング日本一」の予算は「ふるさと納税」返礼品を除くと減額されている。今後縮小の方向か。

また「農地付き住宅」や「お花畑構想」も消えているが諦めたのか。

町長 農地取得面積の下限の見直しもあり、就農しやすい環境はできた。予算上消えたように見えるが、研究は進めている。

「田舎暮らしランキング日本一」は3本柱の1つで、強い思いは変わらない。

問 日本全体の人口が減っていく中で、いつまでも定住促進に大きな予算を盛り込んでいくことに限界がある。また「ふるさと納税」は有効だと思うが、両

刃の刃だ。注意しないと大きな傷を負うことにならないか。

町長 少子高齢化・人口減少の中で、人口を維持し増やすことは行政の重要な課題だ。できる限り町への移住を歓迎する姿勢を示すのは大事だ。

「ふるさと納税」は地域おこしにもつながり、取り込まない手はない。

問 地域おこし協力隊が14人に増員される。受入側の体制や意識の改革が無ければ、効果は出ないと思うが。

副町長 第1期生の意思を十分に尊重できなかった。受け入れ体制などを調整したい。

問 職員の勤務環境にも「飯島ルネッサンス」が必要だ。自己を再生し、仕事に誇りを持てるように復興する必要があるが。

町長 仕事量が増えているのは事実だ。メリハリをつけ状況に応じた判断をしていきたい。

〔以上1件質問〕



暮らしやすさ日本一に



滝本 登喜子

DMO

南部の取り組みは 町の観光を見直し構築 町長

問 観光協会はどう関わるのか。

町長 DMO※1は、地域の観光を互いに掘り起こして経済の活性化につなげる取り組み。

観光テーマは、町独自の題材を持っていることが必要。観光協会も積極的に関わるが、産業振興課を中心に見直し構築していく。

※1 地域と協同して観光地域づくりを行う組織

問 特命チーム営業部との関わり・取り組み状況は。

町長 アウトドアスポーツ部門もでき、多くの意見を聞く段階だ。次は具体的な事業を行う。

花部門では、アグリネーチャー付近にお花畑を作るため、3月に種をまく予定。

アウトドア部門では、スポーツイベントを計画。

都市との交流では、都市企業の社会貢献として、町有林の間伐作業を行う予定。

問 リニアへの取り組み状況は。

町長 DMOが始まる前に町の体制を整えたい。また、三遠南信道開通に対してもまず町の観光資源構築が先決だ。

子どもの食事・学習環境

問 「こども食堂」※2「子供カフェ」※2への取り組みは。

教育長 子ども広場や学童クラブがあり、子供の居場所づくりの機会と理解する。食事については、取り組みたい有志がいれば健康福祉課と連携していく。

※2 経済的な事情などで団らんや食事がとれない子どもたちへのサポート。

問 不登校児の人数と学校の対応は。

教育長 今年度は14人いる。スクールカウンセラーが対応。教育相談員や保健師も支援している。

問 教育機会確保法を受け、学校以外での多様な学習機会をど

う考えるか。

教育長 不登校児童など、義務教育学齢期の子供は、飯田や伊那養護学校に在籍している。校内に中間教室もあり今後も充実していく。

「田切の里」移動購買車

問 運営状況は。また、重点道の駅は地域福祉の目標と整合しているか。

産業振興課長 移動購買車は地域の課題を見据えた事業で整合している。今後も宅配サービスを行う計画である。

問 担当者は教育・研修をどのように受けたか。

産業振興課長 田切の里の部門責任者とともに、先進地の視察・インターネットなどでの情報収集をした。町では隊員と懇談しアドバイスをを行った。

問 担当者の考え・プランは反映されたか。

産業振興課長 ゼロベースから担当者が作成。買い物弱者のアンケートを掌握して運行プランを立てた。

〔以上3件質問〕



多様な学習機会 陶芸体験

移動購買車

事業に福祉助成を

制度創設を検討 町長



折山 誠

問 道の駅「田切の里」の運営状況は。

町長 12月までの実績は、客数約8万5000人で売り上げ約1億1000万円。

目標達成率はそれぞれ96%と101%で、計画どおりとなっている。

問 職員の離職・休職が多すぎないか。

産業振興課長 入社式当時の従業員数は、地域おこし協力隊を含め27名。2月現在は33名でうち休職者1名、現在までの退職者は5名。

問 『地域を良くしていこう』という志を持ったスタッフが、道半ばで去っていくのは忍びない。経営が初期の目的から外れ、来客数や売上高の多少に左右され過ぎているのではないか。

今必要なのは、スタッフが笑顔で活躍できる環境づくりでは。

町長 開店当初は忙しくても、落ち着く時が来る。その時点で原点に立ち返ることが必要。地域の案内や野菜生産者の説明など、お迎えする心の商売が必要。

会社取締役など経営者がリードして運営し、町はそれを支援していく。協力隊員の仕事は会社任せだが、町は隊員の話聞き意をくみ、3年後の自立という目的に向けての関与はする。

問 移動購買事業は、高齢者などの買い物支援・御用聞き・見守りなどの役割も果たしており、福祉事業そのものだ。「田切の里」は、その崇高な目的を掲げて、この事業を開始した。このような民間の取り組みに財政支援を行っている自治体がある。

現在頓挫している「田切の

里」の移動購買事業を健全な形で復活させるため、福祉事業として町補助制度の創設を求める。
健康福祉課長 「田切の里」は、福祉の重点道の駅となっている。産業振興課・社協など福祉部署も含め、制度の創設と活用を検討する。

道の駅「花の里」周辺の
一体的活用を

問 「里の菓工房」のイベント関係者などが「花の里」に駐車しようとすると、利用組合から規制を受けるという町民の声がある。

町は、道の駅駐車場の利用制限まで利用組合に付与しているのか。

産業振興課長 栗菓子店のイベントで、「花の里」の駐車場を使ってはならないということは一切無い。

問 「花の里」隣接の商業施設の協力連携を促し、定期・合同イベント開催で誘客が期待できる。「花の里」が核となってこの地域を発展させていくよう、行政のてこ入れを求めるが。

町長 民間が自主的に連携することが王道。行政としてお手伝いの用意はいつでもある。



出番を待つ移動購買車

住民の生活拠点「田切の里」

〔以上2件質問〕



堀内 克美

新年度予算

想いは反映されたか 住民要望に沿った予算 町長

問 新年度予算は、前年度より1億3000万円減であるが、バランス的には前年度とほぼ同様である。町長の想いは反映されているか。また何点か。

町長 公約を踏まえ、子育て・福祉の充実・体育施設の耐震補強など、想いを反映した。よくできた予算である。

問 食育ネットワーク会議は、4年ぶりに所管を健康福祉課に移して再開された。

食生活が大きく変化した今、食育は生きるための重要な課題である。

この際イベントを企画してはどうか。

町長 再開を記念してイベントを検討していく。

健康福祉課長 第2次食育計画作成に合わせて、ネットワーク会議を、29年度に教育委員会から健康福祉課に配置し対応する。

予算はそれぞれ所管課ごとに計上している。

イベントについては、今後検討していく。

問 合併浄化槽エリアは、公共下水道・農業集落排水エリアに比べ、建設費が極端に少ない。管理補助増額の考えは。

建設水道課長 今後の課題として検討する。

問 田切駅の階段は高齢者にはきつい。改善できないか。



田切駅の階段

総務課長 JR東海の施設であり、改善要望は行っているが進展がない。

問 高齢者は少しの段差でも厳しい。特に田切駅の階段はきつい。

JR東海で出来なければ町の予算では対応できないか。

総務課長 バリアフリー法で順次改善されている。

しかし、田切駅は乗降客も少なく、駅の構造も含めて改善が難しい。軽微な改修は町でも対応したい。

年輪行政の推進を

問 伊那食品の塚越会長は、年輪経営でコツコツ会社を成長させてきている。

行政も遠くを計る年輪経営の時代では。

町長 現在の町の計画は遠くを計っての10年である。

しかし、現在の世界情勢では、100年先は見通せない。

20年経っても30年経っても変わらない大事なものは自然だ。

そこで物づくりをすることが地域の財産だ。

人間回帰・自然回帰で人間らしい生活ができる環境が大切だ。

そういう位置けで遠くを計っていく。

〔以上2件質問〕

いいちゃん
バス

期待に応える運行を

検討し、形に 町長



三浦 寿美子

問 平成19年度に試運行が始まり、見直しの度に一般質問で住民の声をつないできた。

いつも『要望意見を十分議論して見直しをしている』という答弁だが、改正後も同じ要望が出てくる。

運行見直しには、住民の期待に応えるための議論と検討が求められる。位置づけを確認する。

町長 町民の日常生活に必要な生活交通の確保に欠かせない重要な公共交通である。

問 交通手段のない人は、親戚や友人を訪ねるなど、思い立ったときに気軽に出かけられない。今は、いいちゃんバスは予約をしないと利用できない。

使いたい人のすべてが利用できてこそ、移動手段の確保ができる。生徒・児童も利用できないかとの声もある。

あっておかげと喜ばれるために、どのように見直すのか。

総務課長 いちいの会やいきいきサロンなどに職員が出向き、意見を聞く機会をつくりたい。

問 バスの運行で一番大事にすべき人は誰か。予約制で利用しにくくなっているのに見直しの都度改善されていない。週に1日は定時運行とし、予約せず利用できる日を設けるよう提案するが。

町長 週に1回という方法も含め、いろいろな角度から検討して、みんながうまく使える形が作られればいいと思う。

就学援助金 入学時に給付を

問 小中学校で準要保護の子どもたちが増えている。

入学時の費用は多額で、中学校では約10万円かかると聞く。就学援助金の支給は年2回、9月と3月で初めの支給は9月である。

来年3月の入学準備に間に合うよう制度を構築する考えはあるか。

教育長 4月に各学校を通じて制度を保護者にお知らせしている。申請があると年度途中でも

受け付けていて、支給に該当するか審査・認定をしている。申請者の所得証明書は通常は前年分だが、3月支給には所得状況の判断に課題がある。

29年度は間に合わないが、調査・研究をする。

「後期高齢者医療」 支払いが困難な時は

問 厚労省によれば、昨年6月で約23万人が滞納している。保険料が上がることや医療費の負担増の影響が心配だが。

健康福祉課長 29年度から軽減の一部見直しがある。均等割の基準が引き上げられ、5割の低所得割軽減が、30年度以降は無くなる。元被扶養者の均等割の軽減特例は、発足当時の被保険者は28年度9割から段階的に減り、33年以降無くなる。医療費負担も段階的に上がっていく見込みである。

問 治療費が払えず途方にくれてしまうときでも、治療を続ける必要はある。困った時は、どこに相談すればよいか。

健康福祉課長 ケースバイケースで対応するので、健康福祉課の窓口相談してほしい。

〔以上3件質問〕



定時運行を



坂本 紀子

自治会

町はどう関わるのか 新ルールを考える時か 町長

問 自治会の基本的な特徴は

- ・一定の区間で重ならない
- ・1世帯が1単位
- ・原則として全世帯加入
- ・地元の諸問題に関与すること
地域を代表する組織である自治会をどう捉えているのか。

町長 住民にとって心豊で安心して暮らすための身近な組織で、行政と対等な立場で協力し合えるパートナー。地域の課題解決や伝統行事の継承など歴史がある。

問 人口減少と高齢化で活動に加われない人達も出て来ている。

ぜひ、移住者に入って欲しいが法的に強制できない。

運営を透明化し時代に合わせたものにしては。移住者だけでなく住民にも加入金・月々の費用や活動の情報公開を。

伊那市はすでに紙面で1年間の活動・費用を公開している。自治会役員は専門家を招いて学んではどうか。

企画政策課長 平成23・25・27年度に実態調査をし、加入金・自治会費・労務などの平均額・最高額・最低額を自治会長に公表した。入会金や会費の見直しをした自治会もある。アンケート結果はHPで公開している。

自治会の課題はその中で協議し、要望があれば専門家へつなぎたい。

問 平成28年度のアンケートのトップ5は何か。

企画政策課長 運営・活動で困っていること

- | | |
|-----------|-----|
| ・構成員の高齢化 | 82% |
| ・役員の負担が多い | 80% |
| ・役員のなり手不足 | 70% |
| ・除雪対策 | 62% |
| ・自治会未加入世帯 | 52% |

行政と自治組織が協力して取り組むことの疑問・負担が大きい

(疑問・負担)

- | | |
|----------|---------|
| ・各種募金 | 35%・26% |
| ・福祉活動 | 15%・7% |
| ・健康づくり | 15%・4% |
| ・防火・防災対策 | 13%・15% |
| ・交通安全・防犯 | 13%・13% |
| ・除雪対策 | 2%・62% |
| ・公民館活動 | 7%・46% |
| ・道路河川の維持 | 2%・48% |

問 このアンケートで、生活改善推進員・防犯指導員・健康推進員・消防団・安協など組織への疑問が出されていたが、どう捉えているか。

企画政策課長 自治構成員の高齢化や役員の負担が多いようだ。再度、見直したい。

問 自治会未加入者は広報をJAや道の駅などへ自分で取りに行っている。しかし、広報は町の情報誌であり全戸配布は当然である。

今後の対応は。

総務課長 自治会加入を強く勧める中での配布方法。新年度の住民アンケートの結果により検討したい。

町長 20年前に財政が緊迫した中での住民協働であった。新ルールを考える時が来たのか。

〔以上1件質問〕



自治会の水路掃除

学校給食センター

建て替えを急げ

H31年に詳細設計を 教育長



中村 明美

問 建設から34年が経ち、設備機器の老朽化も進み不具合が出ている。町長も給食センターを視察しているが、率直な感想は。

町長 限界が来ていることは明らかだ。近代的な給食センターでない、と感じた。

問 衛生管理の法的義務は一段と厳しくなり、基準ぎりぎりの状態で運営している。

例えば、トイレは白衣を脱いで入る。当町は脱衣スペースがなく、更衣室で脱ぎ着するので作業性が悪く、調理員の精神的苦痛にも至っている。また、ねじ外れや水漏れは日常茶飯事とか。床のドライ化も義務づけられているが、コンクリート床の同センターは水を使わずドライの状態で清潔感を保っている。

このような状況の中で子どもたちに給食を提供している。現実にはしっかり目を向けてほしい。現状をどのように捉えているのか、計画を前倒しで建てかえるべきでは。

町長 実施計画では31年度に詳細設計を行う。財政面の様子を見ながらできるだけ早く工事に取りかかりたい。

問 当町では調理員の正規職員がいない。子どもたちの健全育成の重責を担っており、処遇改

善を求めるが。

町長 正規職員との格差はあると感じている。退職に伴う採用時に検討したい。現段階では嘱託職員、臨時職員の処遇改善で対応した。

給食をランチルームで

問 中川と宮田の中学校を視察した。中川中では、給食準備時間の短縮・衛生面・生徒の連携感を育てることから設置。放送室があり、給食時に顔の見える中で生徒会連絡を行っている。冷暖房完備のため多目的に活用。

せめて昼には子どもたちが学習の部屋から離れ、午前中の緊張感からリラックスさせてあげたい。クラスの輪を超えた交流もでき、学校生活の充実も望める。食育・生徒間の絆が強まる

ことも2校の例から実証済み。

給食センター建替え時にランチルームの設置を考えては。

教育長 比較的小規模な学校に取り入れられてきた。ランチルームに集まると、学年・全校集会を毎日やっている感覚で、連絡や団結力は高まると感じる。

一方、学校に来られない子どもたちが教室へ戻る第一歩が給食時なので危惧する面もある。

財政的・物理的に非常に難しいと認識しており、設置の発想は今のところ持っていない。

他に、教育機会確保法成立をうけ「夜間中学校設置・充実に向けて」迅速な取り組みを求めた。

〔以上3件質問〕



宮田中のランチルーム風景



竹沢 秀幸

観光基本 計画

温泉発掘を

計画策定で検討 町長

問 新年度策定する観光基本計画に、温泉発掘を提案する。

町長 飯島町に温泉が欲しいという願いは、町民みんなが持っている。

過去に温泉発掘調査を実施したが、発掘される可能性は低いとの結果から断念した。

越百の水を、間伐材のチップや太陽エネルギーなどの自然エネルギーで沸かす風呂。これは新しい方向性の温泉と考える。

住民からの意見や課題などを踏まえ、観光基本計画策定の中で検討する。

問 アウトドアスポーツの拠点を千人塚周辺とする場合、県道千人塚公園線の早期整備が必要となる。

県への強力な働きかけを。

建設水道課長 本路線は、主要地方道から中央道までの約700メートルの間が狭く曲がりくねっている。

観光バスなどの大型車両は町道天神松線を利用している。

今後千人塚公園の更なる利活用を図るため、道路整備は重要であり県への働きかけを強化し、整備促進を図る。



整備が必要な県道千人塚公園線

第二県庁招致など求む

問 平成30年度は伊那県庁150周年であり、

- ①第二県庁の招致
- ②養護学校の分室招致
- ③知事車座集会開催

を提案する。

町長 県の施設を何か一つでも町に招致することができれば、

町の活性化を始め、さまざまなメリットが見込まれる。

また知事を招いた車座集会などの情報があれば、町も積極的に検討したい。

教育長 特別支援学校の分教室は、高等部が上伊那農業高校にあり、中沢小学校にも「はなもも分教室」がある。

今後、地元地域のニーズの高まりなどがあれば、県の特別支援教育課と協議する。

自治基本条例の早期制定を

問 第5次総合計画・後期計画にもとづき、町民参加により時間をかけて制定作業を進め、町長任期中に制定を求める。

町長 第5次総合計画では検討をうたっている。現在はまだ時期が早いと考えている。

町民とともに自治基本条例を制定し、末永く住みやすい飯島町へとつながることに、大きな夢と期待を寄せている。

他に、

「町民と事業者で支える給付型奨学金制度へ後方支援」

「民間手法を取り入れた人事管理と処遇改善」を質しました。

〔以上5件質問〕



150年前の伊那県庁

地域自治

スリム化で持続可能に

住民主体で改革を 町長



浜田 稔

問 耕地・自治会の加入率と、目標90%への見通しは。

町長 平成23年の88%から低下したが、平成26年以降85%で下げ止まっており、向上を目指したい。

問 行政が加入増を目指す動機は何か。

町長 住民と行政が直接つながる都会的な考え方もある。しかし防災・地域福祉・環境保全などに地域のつながりは大切だ。

地方自治体は行政と住民自治で成り立つ。心豊かで安心して暮らせる地域づくりのために、行政も加入を勧めている。

問 耕地未加入の背景には、都会的価値観と地域が大事にしてきた文化との違いもあるだろう。

少なくとも地域自治の必要性を理解してもらい、接点を探る調査も必要ではないか。

企画政策課長 町が未加入者を含む懇談会を開催したことがある。詳細は後日示す。

問 「町内会が消える？どうする、地域のつながり」という特集がNHKで放映された。当町でも、役員の負担が重いという声が増えているようだ。

耕地・自治会の代表者へのアンケートからも課題が浮かび上がってくる。大きく括ると

- ・担い手不足や役の多さ
- ・行政の下請け業務の多さ

その一方、ごみ収集・環境美化・健康づくり・防災などでは行政との協働が好感されている。

耕地・自治会の役割をスリムにして、身近な地域自治に専念できるようにすべきでは。

町長 町の財政危機を町民協働で乗り切ることを求められた時代があった。耕地・自治会に多くの仕事が委託されたが、当時の担い手も高齢化などで重荷になっている。改革が必要な時期だと思う。

問 行政も職員不足で、地域に委託してきた業務を引き戻すことは無理だろう。ならば行政がリーダーシップを執って耕地・自治会のスリム化を推進してはどうか。

町長 アンケート調査から段階を踏んで住民の意見をまとめ、みんなで変えていくのが本当の

自治のあり方だと思う。

上伊那の医師確保を

問 上伊那は医師が少ない。その結果、よそで治療を受ける患者が増え、ベッドの稼働率は下がる。すると病床数が減らされ一層医療が縮小するという悪循環だ。遠くに入院すると、高齢家族は見舞いにも行けない。

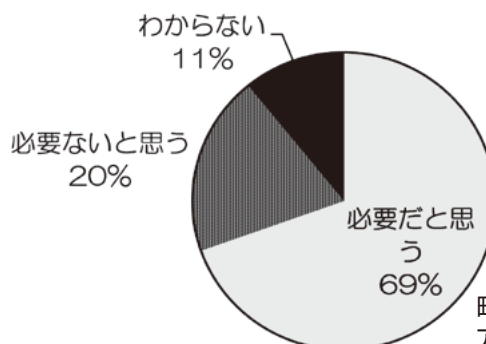
上伊那への医師の配置を強く県に求めるべきだ。

健康福祉課長 松本地域は恵まれているが、上伊那の人口当たり医師数は県平均の6割だ。国の医療構想審議会は病床数を減らす意向で、松本地域へ医療の集中が進んだためだ。

上伊那は病床数維持を要望したが、現状は開業医の協力も得て地域で医療を支える方向だ。

〔以上2件質問〕

貴自治組織の将来を考えた場合、組織や運営方法などについて、大きな見直しが必要だと思いますか？



町内47耕地・自治会代表へのアンケートから(H27年度)

町民の声を 議会へ

このページは町民の皆さんに取材協力をお願いし、町政や議会への意見や感想を掲載しています。

今回は「千人塚農園カモミール」代表
かみむら ちかこ
上村千賀子さんに登場していただきます。

次世代に向けた観光農園づくり

千人塚地区は標高800mを超え、中央アルプス・南アルプスを展望できる風光明媚な場所です。桜の名所としても知られ、町内外から多くの観光客が訪れます。



美しく広がる風景

しかし昨今の諸事情により、周辺の田畑が耕作放棄地となり、荒れつつある過疎地でもあります。

国中の農村や地方小都市の若者が、就学や就職などで関東圏・関西圏・中京圏などの大都市に出ていき、生まれ育

った故郷に回帰することが無くなりつつあります。

わが飯島町も例外ではありません。徐々に各地区から人口が減り続け、水田・畑での耕作が減少しています。

若者達が大都市に流れ、都市部のみが潤う構造が続くのであれば、この多くの人々を農村部へと呼び込みたい。それには滞在を長くしてもらえようような「お洒落なレストランやカフェ」などの整備を図り、多くのリピーターが生まれるようなサービスを提供しなければなりません。

そこで、この地区の風光明媚な空間を利用し、ハーブなどを主に「見て楽しむ」「収穫して楽しむ」そして「食して楽しむ」農園を作ること为目标にしました。

3年間ハーブ類の発芽実験や株分け栽培の確認および、日本各地のハーブ園の視察などを行い、このたび地主さんと共に作付けることにしました。



みんなで作業(会員50人)

耕作放棄地を整備管理し、樹木を育て、春から秋にかけて色とりどりの花を咲かせ、ハーブなどを利用した6次産業を興して雇用の促進も行う予定です。

町と議会に望むこと

成人大学などで住民参加型の討論会が開催されていますが、少し柔らかな頭で飯島産蕎麦を「打ちながら・茹でながら・食べながら」の蕎麦タウンミーティングなんてのはいかがでしょうか？

カチコチの会議だと敷居が高いように感じられて…。

ご一考いただければ幸いです。

議会だより

クイズ

問題

5月開業！診療所の名前は
飯島〇〇クリニック

ヒントは
12ページに

正解者5名様にいいちゃん商品券進呈
(締切は5/31、発表は発送をもって代えさせていただきます)



応募要領

住所・氏名・年齢・解答とご意見などをご記入のうえ
ハガキ・FAX・いいちゃんポストで、飯島町
議会事務局 議会だよりクイズ係宛まで

編集後記

77号は、議員選挙による議会構成替えがあったため1ヶ月遅れの発行としました。広報委員会も新メンバーでスタートします。

発行責任者 議長 堀内克美
編集委員 ◎橋場 ○折山
滝本・好村・浜田・坂本